

3 学校の実態

学校の実態

1. 地域の実態

本校は、白川小学校、片島小学校、与原小学校、南原小学校の4小学校区からなり、田園地区と新興住宅地区の複合型地域である。近年は臨海部への工場進出がめざましく、従事する保護者も数多くいる。

地域の教育に対する期待は大きく、町行政も学校環境の整備に尽力している。子ども会・青少年育成会の活動も盛んで、非行問題等に対する校区内PTA組織の連携による取組も進んできた。

個々の保護者の教育熱は高く教育活動に対しての関心もあるが、近年は、学校への依頼心が強まる傾向にある。そこで、学校開放、PTA活動の活性化、地域行事への積極的参加等を図り、学校・家庭・地域の連携を深めることで、学校教育目標の実現を図っている。

2. 学校の概況

昭和31年4月に開校し、平成18年に50周年記念行事を行った比較的伝統の新しい学校である。

昭和58年2月に木造校舎から現在地の鉄筋校舎に新築移転するとともに、同年4月に学校組合立を廃止し、白川小学校区の生徒を受け入れ現在に至っている。

校舎は、周防灘を一望する見晴らしのよい高台にあり、隣に西日本工業大学、大熊公園、周囲を新興住宅地が取り巻く恵まれた学校環境にある。また、校区の一部は、カルスト台地の平尾台の裾野まで面している。

3. 生徒の実態

本校生徒は、主に4小学校より入学している。2校は主に農村地域、他の2校は市街地・住宅地域にある小学校である。荻田町の特色から、他府県・他郡市からの転入生が多く、生徒数はここ数年440名～470名を推移する中規模校であるが、ここ数年若干増加傾向にある。また平成17年度より、2学期制を本格実施し現在に至っている。

(1) 「知識・技能」の習得

基礎的・基本的な知識・技能の習得状況は二極化がみられる。

(2) 「思考力・判断力・表現力等」の育成

授業の中で自分の考えを理由や根拠をもとに説明する場は概ね設定されているが、論理的思考力や表現力がまだ十分身につけていない生徒が半数いる。

(3) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養

学習意欲を持ち、主体的に考えようとする力が少しずつ身につけてきているが、家庭学習時間が短く、計画的な予習や復習の習慣の確立に課題がある。

(4) 道徳性（思いやり、生命尊重、人権尊重等）

自分や友だちを大切にしようとする生徒の姿が見られ、豊かな心は概ね育まれているが、日常の生活面で他人との関わりをうまくもつことができない等の傾向が一部見られる。

(5) 基本的な生活習慣

あいさつができ、全体的に落ち着いた生活態度で学校生活を送り、規範意識が高まった生徒が増えてきた。メディアコントロール力の育成が課題である。

(6) 体力、運動能力、健康面

健康面で朝食を抜くなど食生活が乱れている生徒が増加傾向にある。部活動が盛んで、各種大会において優秀な成績をあげている。